



HATANODAI CAMPUS
旗の台キャンパス

医学研究科 歯学研究科 薬学研究科



SENZOKU CAMPUS
洗足キャンパス

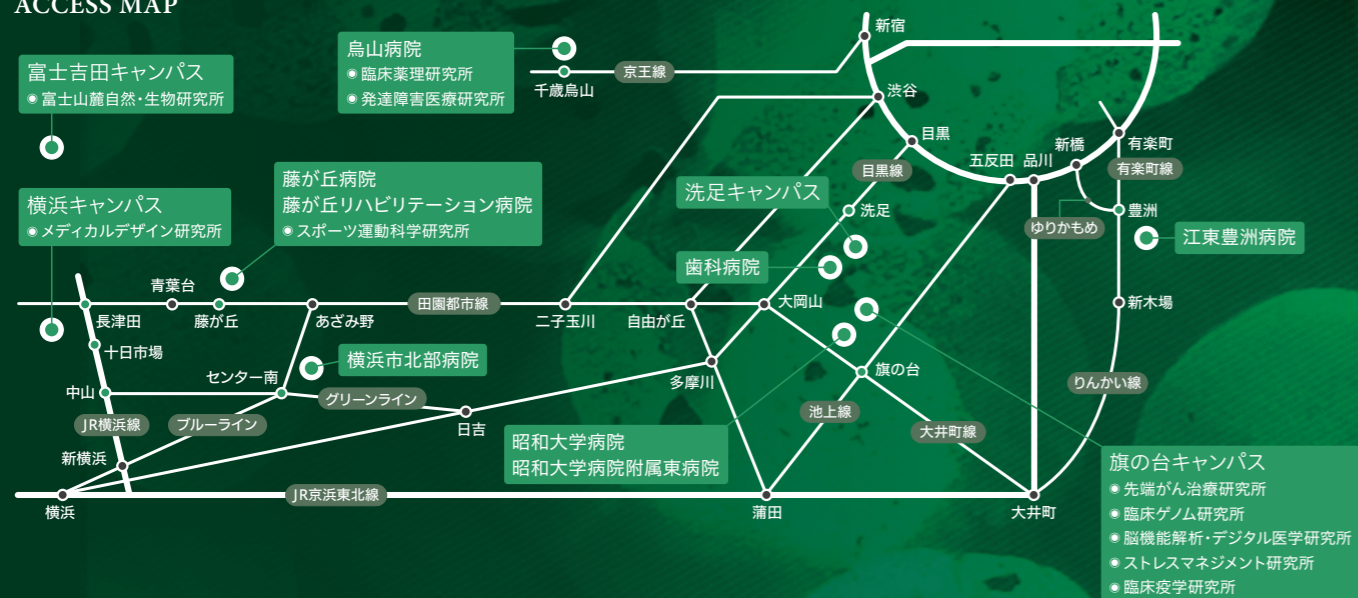
歯学研究科



YOKOHAMA CAMPUS
横浜キャンパス

保健医療学研究科

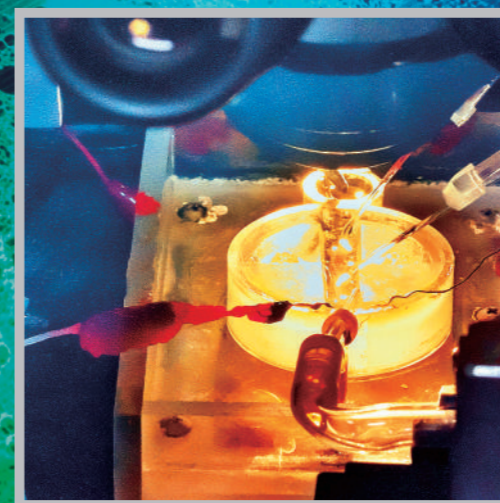
ACCESS MAP



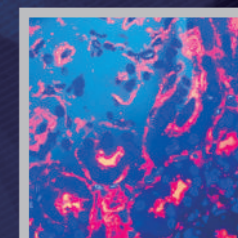
SHOWA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

2025
GUIDE BOOK

昭和大学 大学院



GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE
GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY
GRADUATE SCHOOL OF PHARMACY
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES



本学は「社会の文化と公共の福祉に貢献する」ことを学則にうたい、
何よりも国民の健康に寄与することを大きな目標に、
建学の精神である『至誠一貫』を体現する教育・研究に努めています。

医療分野の未来を拓く皆さんへ

昭和大学 学長 久光 正
Tadashi Hisamitsu

President's Message

本学大学院には、医学研究科博士課程（4年）、歯学研究科博士課程（4年）、薬学研究科博士課程（4年）、保健医療学研究科博士前期課程（2年）および博士後期課程（3年）の4研究科があります。

その大きな特徴は、4研究科が揃う医系総合大学の大学院であり、それぞれの研究科が壁を作らず研究活動を行えることです。

また、最高水準の設備とスタッフを擁する8つの附属病院には、研究と教育の両面で最良の環境が整っており、臨床と基礎が密に連携して研究を進めています。

現在、本学大学院では修了生が毎年約100名を数え、4研究科それぞれの分野の未来を拓く研究者や指導者として社会に貢献する優れた医療人を輩出しています。

ぜひ、本学大学院で、皆さんの若いエネルギーと貴重な時間を有意義に使い、後世に残る研究成果を挙げていただきたいと思います。



ADMISSION POLICY

アドミッション・ポリシー

昭和大学大学院は「至誠一貫」の精神をもとに、

より高度な医療や研究に邁進し、人類の幸福に貢献する人材の育成を目指しています。

入学選抜にあたり、私共は次のような多様な学生・社会人を広く求めます。

- 医療・健康・生命科学の専門知識を深く追究する意欲のある人
- 常に探究心を持ち、先進的な医療を担う意欲のある人
- 自らの活動領域を広げ、医系総合科学を発展させる意欲のある人
- さまざまな分野の専門家と共に、先端的・独創的な研究を志す人
- 社会での実践から得た知識と経験を体系化し還元する意欲のある人
- 国際的視野を持ち、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性を持つ指導者を志す人



「至誠一貫」の精神

Shusuke Kamijo 上條 秀介

昭和大学は創立後まもなく、『至誠一貫』の方針を掲げました。

創立者の上條秀介博士は、「社会に役立つ医師や医療職になろうとする一貫した至誠の理想を体得するならば、学生諸君はおのずから真剣となり努力せずにはいられないはずだ、自粛自制をもって『至誠一貫』の真の精神を日常の実践に活かしてもらいたい」と学生を鼓舞しました。

『至誠一貫』は単なる標語ではなく、学問を学び、医療に携わる一人ひとりの確固たる信念を指していたのです。博士は入学式においても、「古語に曰く『医は仁なり』すなわち、この仁の気持ちは至誠であります。将来、悩める人に接する医者には、この気持ちが絶対に欠けてはならないのであります。この至誠をどこまでも貫くということを我らは片時も忘れてはならない。『至誠一貫』は本校の校是であり同時に校風なのであります」と述べています。

● Graduate School of Medicine

● Graduate School of Dentistry

● Graduate School of Pharmacy

● Graduate School of Health Sciences

SHOWA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

大学院の魅力



01. 4つの研究科と8附属病院が連携、ボーダレスな研究環境

昭和大学大学院の特色は、医学・歯学・薬学・保健医療学の4つの研究科がそれぞれの専門領域を超えて、連携し合える環境にあります。

さらに8つの附属病院と連携し、数多くの症例や臨床データを科学的なアプローチで究明したり、あるいは基礎研究で得られた発見を臨床で応用するなど、臨床と基礎が融合した研究環境が整っています。

02. 医療人と大学院生が両立できるプログラム **社会人受入制度**

昭和大学大学院では、社会人の受入れを積極的に推進しています。平日の日中は医療人として専門分野で勤務をしながら、平日の夜間および土日に開講される講義を受講することで単位を修得できるよう、各研究科ともにカリキュラムを整備しています。さらに、オンライン授業の取り組みも進めています。また、臨床研修医、臨床研修歯科医、臨床研修薬剤師も社会人として入学し、基礎系科目を専攻することが可能です。

03. 充実した施設と支援で高度な研究に対応

各研究科・講座の研究室のほかに、高度な研究に対応した、共同で使える施設があります。私立大学では有数の機器もそろい、施設スタッフのサポートのもと大学院生も活用できます。

また統括研究推進センターでは研究に関するさまざまな支援が受けられます。セミナーやワークショップのほか、個別の研究の相談、論文執筆の支援もっており、大学院生にも開かれています。

共同研究施設、支援の詳細は ▶ P.16



Graduate School of
Medicine
豊田 仁志 さん
医学研究科
医科薬理学3年次

基礎から臨床へと循環する研究 シームレスな環境が成果の幅を広げる

手術だけではなく、薬で骨折が治せないか？ 臨床疑問から大学院進学を決意

豊田仁志さんは、医学部の臨床実習でダイナミックな骨折の手術を見学して、整形外科医を目指しました。専門医の資格を取得したいま、日々の診療をこなす中である疑問を抱くようになりました。

「骨折を治療する患者さんを数多く手術してきました。その中でも治りやすい患者さんと治りにくい患者さんがいるのです。たとえば手術だけでなく、薬を使ってうまく治す方法はないのか？大学院に入りそのような薬について研究をすれば、将来的に臨床に生かせるのではないかと考えて、大学院の医科薬理学に進んだのです」

豊田さんが所属している「薬理科学研究センター」は、医科薬理をはじめ学部横断の研究分野が協働しています。センター長の本内祐二教授は、豊田さんの進学動機を聞いて、学位論文はがん免疫の分野で研究することを勧めましたが、最初、豊田さんは戸惑いました。「薬の研究ではなく、少し離れていると思われる臨床免疫腫瘍学の研究を勧めていただき、正直どうなるんだろうと感じました。ところが研究を進めるうちに、本内先生の意図が理解できるようになったのです」

豊田さんは薬理科学研究センターのがん・免疫炎症研究グループで「新規がん免疫治療薬の開発」につながる基礎研究を行うことを決めました。

「がん治療において、免疫チェックポイント阻害剤などのがん免疫療法が、手術療法、化学療法、放射線療法に次ぐ第4の治療として、がん患者さんの長期生存を可能にする革新的な療法になりました。ところが有効性がまだ低く、その底上げが課題となっています。私はT細胞を活性化させる新たなシグナルに着目しました。これを活性化させれば、免疫チェックポイント阻害剤と併用することでがん免疫療法の底上げができるかもしれません」

がん免疫療法から骨折部の骨癒合へ 派生した研究テーマが臨床への循環を生む

豊田さんはがん免疫の研究を進めるうちに、免疫関連で起こる有害事象についても研究しました。免疫チェックポイント阻害剤で活性化されたT細胞が自己免疫疾患のように関節を攻撃して炎症性関節炎を起こすことがあるからです。

「私は整形外科医なので、T細胞ではなく関節内の滑膜の動きを調べました。滑膜の産生する物質が、関節の炎症を悪化させることがわかったからです」

豊田さんはさらに免疫に関する研究を広げて、骨免疫による骨折部の骨癒合に関連した研究にも取り組みました。一見、専門の整形外科と離れたがん免疫治療の基礎研究が、もともと大学院を目指すきっかけとなった「何か薬で骨折をもっとうまく治せないか？」という疑問の解決が見えてきました。

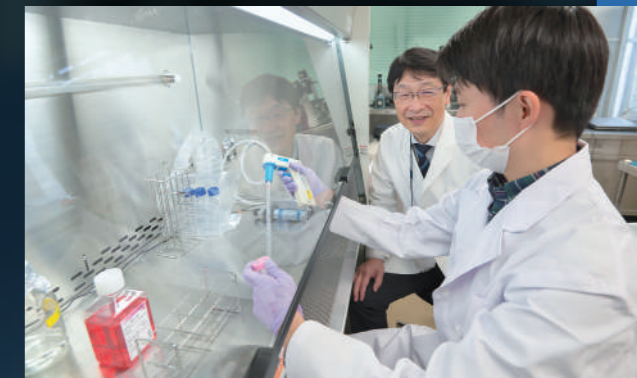
このような基礎と臨床の「研究の循環」には、薬理科学研究センターのシームレスな研究者の交流が役立っています。医学・歯学・薬学の3研究科の研究者が同じ施設で研究しているだけでなく、がん免疫の研究では、薬理科学研究センターの連携研究室である臨床薬理研究所・臨床免疫腫瘍学部門の吉村清教授からも指導を受けました。骨折部の骨癒合の研究では、骨免疫の分野で有名な歯科薬理学の高見正道教授から指導を受けました。同じ薬理科学研究センターに所属している歯学や薬学の大学院生、教員からアドバイスもらったことは数知れません。

「すぐ隣で医科薬理学分野の研究者が別の実験をしていたりします。免疫染色の方法がわからないとき、ちょっと声をかければ教えてもらえます。昭和大学では学部連携の授業が多く、学部を越えて交流することが自然に刷り込まれています。大学院でも歯学研究科の先生、薬学研究科の先生、みんな仲間だという感覚で積極的に話しかけるようにしていました」

博士号を取得した後は、整形外科医としての専門性も高めていきたいという豊田さん。大学院で研究した経験は、ここでも生きてくると実感しています。

「整形外科の専門医としてサブスペシャリティの認定を受ける際も、骨免疫やがん免疫の研究・知識が役に立ちます。整形外科では、骨免疫の研究をしている先生がまだいません。それを研究することで、私が整形外科に還元できたらうれしいですね」

学部を越えた研究者同士の交流や基礎研究と臨床研究の循環を経験して、豊田さんは研究の幅が広がったと感じています。臨床に戻っても、大学院の魅力の後輩たちに伝えながら基礎研究も継続し、研究成果を昭和大学の整形外科の強みにしていくことでしょう。



指導教員 木内 祐二 教授 (医学研究科 医科薬理学)

※学年・役職は2024年3月現在

個々が能力を十分に発揮できる研究環境と社会人大学院生に対する積極的なサポート



研究科長 泉崎 雅彦
Masahiko Izumizaki

本医学研究科は、最先端の基礎研究、臨床研究の分野で活躍する指導教員が、医療、医学研究の担い手、指導者として活躍する人材を育成しています。生命科学・医学研究者を目指す人、高度な専門知識と技術を持った臨床医を目指す人、医学部以外出身者で出身学部の特性を生かした医学研究者を目指す人などに広く門戸を開き、社会および医学・生命科学の課題に対し、個々が能力を十分に発揮できる研究環境を備えています。また、昭和大学には、昭和大学病院をはじめとする8附属病院と専門的な各研究所があり、最先端の分野で活躍する教員と充実した設備を備えています。

指導教員は、講義、演習、実習、学会発表や学位論文の作成等に対する指導を通して、大学院生が深い洞察力および

専門的知識と技術を修得できるよう支援します。さらに、研究分野に関わらず、大学院生は「共通科目」を履修し、医学研究に共通して必要な知識や技術を修得します。また、大学院修了後には自らの学識を他者に教授する機会が多く見込まれるため、指導者としての教育能力を育むプログラムを用意しています。

本医学研究科は、社会で働いている方々を積極的に受け入れています。教員は社会人大学院生への指導経験も多く、充実した大学院生活が送れるよう積極的にサポートします。皆様が昭和大学大学院医学研究科で研鑽を積み、医療、医学研究の担い手として、そして指導者として大いに活躍することを願っています。

研究分野および研究分野責任者 (2024年4月1日現在)

顕微解剖学	本田 一徳
肉眼解剖学	大塚 成人
生体制御学	砂川 正隆
生体調節機能学	泉崎 雅彦
生化学	前濱 朝彦
臨床病理診断学	矢持 淑子
医科薬理学	木内 祐二
臨床薬理学	内田 直樹
微生物学免疫学	伊與田雅之
衛生学公衆衛生学	小風 暁
法医学	松山 高明
医学教育学	泉 美貴

呼吸器アレルギー内科学	田中 明彦
リウマチ・膠原病内科学	矢嶋 宣幸
糖尿病・代謝・内分泌内科学	山岸 昌一
消化器内科学	吉田 仁
循環器内科学	新家 俊郎
腎臓内科学	本田 浩一
血液内科学	服部 憲路
脳神経内科学	村上 秀友
腫瘍内科学	角田 卓也
緩和医療科学	横山 和彦
臨床感染症学	時松 一成
リハビリテーション医学	川手 信行
皮膚科学	猪又 直子
小児内科学	水野 克己
小児循環器内科学	富田 英
精神医学	真田 建史
放射線科学	扇谷 芳光
放射線治療学	伊藤 芳紀
総合診療医学	小風 暁(代行)

心臓血管外科学	青木 淳
小児心臓血管外科学	宮原 義典
呼吸器外科学	武井 秀史
消化器一般外科学	青木 武士
乳腺外科学	林 直輝
小児外科学	渡井 有
脳神経外科学	水谷 徹
整形外科	工藤 理史
形成外科学	門松 香一
産婦人科学	関沢 明彦
眼科学	恩田 秀寿
泌尿器科学	深貝 隆志
耳鼻咽喉科頭頸部外科学	嶋根 俊和
麻酔科学	大江 克憲
集中治療医学	小谷 透
救急・災害医学	土肥 謙二



石川 紘司さん
2016年3月 博士課程修了
昭和大学医学部 整形外科科学講座 講義
薬理科学研究センター 兼任講師
(Duke大学留学中)

修了生の活躍

研究活動で広がる世界、新しい発見が待っています

「学位を取得する意義はなんですか?」大学院進学時に分からなかった疑問に今なら少し答えられる気がします。私は大学院で、画像解析技術を基盤としたTranslational Research (1型糖尿病患者の骨構造解析)に従事しました。現在は主に基礎研究 (Tissue regeneration, Immunology) に従事し、大学院で学んだ技術を元に、国際的な臨床研究を主導する機会に恵まれています。立派な医師になるために学位は必須で

はありませんが、他大学や世界中の医師・研究者と交流したり、学外で活動する際は「研究」が名刺代わりであり、共通語になります。そして、研究活動でのみ見えるExcitingな景色があります。将来の活路を広げるために、長い医師人生の中で一度、研究の世界に浸ってみるのはいかがでしょうか? 臨床現場では体験できない、楽しい発見があなたを待っています。皆様と一緒に研究できる日を楽しみにしております!

達人と顕微鏡を並べ見えない細胞をとらえる

生体調節機能学

院 生 4年次

依田 俊也 さん

指導教員

泉崎 雅彦 教授(写真下)

指導教員

鬼丸 洋 客員教授(写真上)

依田俊也さんは医学部在学中にMulti Doctorプログラム(科目等履修生制度)を利用していました。医学部のカリキュラムと並行して、科目等履修生として、大学院の教育を受けることができる制度です。これにより大学院の単位を一部修得したため、依田さんは大学卒業後に行う2年間の初期臨床研修を受けながら、大学院の1~2年次の授業を並行して履修することができました。「日中は病院で初期臨床研修を行い、夕方から夜にかけて講義を受けました。ちょうどコロナ禍の時期でオンラインの講義が導入されたこともあり、初期臨床研修と大学院の授業がさらに両立させやすくなりました」

依田さんの学位論文は「新生児ラット-脊髄標本の呼吸性活動に対するアコニチンの影響」です。アコニチンはトリカブトに含まれる毒物で、ヒトが摂取すると血圧が低下したり呼吸不全をおこして死に至ることもあります。アコニチンの作用は、心臓については多くの研究がありますが、呼吸についてはほとんどありません。「まだ誰もやっていない分野であり、自分が勤務して

いる耳鼻咽喉科は呼吸も扱うので関連性がある」と依田さんは考えて研究することにしました。

細胞内記録を可能にした実験へのひたむきな姿勢

アコニチンがどのように呼吸に対して影響をもたらすのか、依田さんは細胞内記録という手技で実験をしました。「新生児のラットに麻酔をかけて、顕微鏡を使って脳幹と脊髄の一部を取り出します。呼吸リズムの発生に関与する神経回路にアコニチンがどのように作用するか、顕微鏡を見ながら標的とした細胞に電極を当て、電気信号がどのように伝わるか記録する手技です」

細胞に当たる極細の電極は、依田さんが自らガラス管を熱して伸ばして作成します。指導教員の泉崎雅彦教授が「これは大学院生ができるようになることは普通ない」と話すほど難しい手技ですが、依田さんは耳鼻咽喉科医としての手先の器用さとひたむきさでこの実験に挑戦しました。この手技を伝授したのは、電気生理学で世界的な業績をあげている同研究室の鬼丸洋客員教授です。

「最初に演示していただき、私もその通りに標本を顕微鏡にセットするのですが、標的の細胞が見えないのです。『いったい何が違うんだ?』と焦りましたが、鬼丸先生の手技を繰り返し観察すると同じ標本を見るときでも細かく焦点距離などの設定を変えていることがわかりました。鬼丸先生は、長いときは6時間以上も私の隣にいて実験を見守ってくださいました。アドバイスに従って

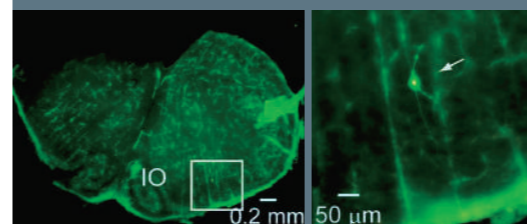


実験を繰り返していると、あるとき見えなかった細胞に電極が当たったようになったのです。『私にも見えるぞ!』と思えたときは、鬼丸先生に心から感謝するばかりでした」

博士号を取得したのち、依田さんは耳鼻咽喉科で専門医を目指したいと話します。「耳鼻咽喉科でも、嚥下や聴覚、顔面神経など神経の動きを電的に解析する研究があります。大学院で取り組んだ研究は、臨床の分野でも幅広く生かしていきたいと思います」

泉崎教授は「臨床から来た大学院生には、彼らの専門分野に近い研究をするように配慮しています」と話します。依田さんも大学院で取り組んだ研究の経験を、今度は臨床で出会う疑問の解明に生かしていくことができるでしょう。

※学年・役職は2024年3月現在



活動を記録した呼吸性神経細胞をルシファーイエローを用いて染色した組織図

研究を志す諸君へ 人生には必ずチャンスが回ってくる



研究科長 高見 正道
Masamichi Takami

「歯科医師国家試験に合格し臨床研修を終えたら大学院に進学しようか、それとも歯科医師の仕事を始めようか」このように迷っている人が若い皆さんの中には数多くいることと思います。私からアドバイスするとすれば、大学院に進学するにあたって必要なのは、科学と医療への「好奇心」や「貢献心」であって、「才能」とか「見栄」ではありません。

大学院歯学研究科では、基礎分野、臨床分野ともに「研究に向き合い続ける」ことが生活の中心となり、皆さんがこれまで経験したことの無い苦しみと楽しさを味わうことになります。そこでは、指導教員や先輩そして患者さんから多くのことを学び、自分自身と向き合うことで研究者としてだけでなく、高い見識と適応力を備えた教育者や歯科医師とし

ても成長していきます。

このように、大学院歯学研究科に進学して自己研鑽することは、長い人生の中で数少ない「チャンス」の1つと言えます。このチャンスには様々なトラブルや挫折も伴いますが、その長いトンネルを抜けると、今よりもひと回り成長した自分がいるのは確かです。

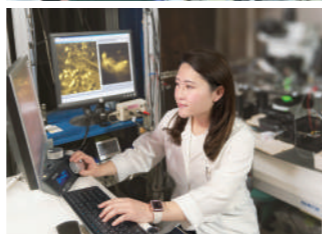
大学院歯学研究科の幅広い研究分野の中には、皆さんにとって興味や、やりがいを感じる研究テーマが必ずあるはずです。それがわからない時は、教員や大学院生など、誰でもいいので相談してください。自らの将来を見据え、高い志を持って生きて行こうとする皆さんの大学院進学を楽しみにしています。

研究分野および研究分野責任者 (2024年4月1日現在)

歯学教育学	坂井 信裕
口腔解剖学	野中 直子
口腔生理学	中村 史朗
口腔生化学	塚崎 雅之
口腔微生物学	桑田 啓貴
歯科薬理学	高見 正道
歯科理工学	柴田 陽
口腔病理学	美島 健二
口腔衛生学	弘中 祥司
保存修復学	馬場 一美 ※
歯内治療学	鈴木 規元
総合診療歯科学	長谷川篤司
歯周病学	山本 松男
歯科補綴学	馬場 一美

顎顔面口腔外科学	代田 達夫
口腔腫瘍外科学	馬場 一美 ※
歯科矯正学	中納 治久
歯科放射線医学	松田 幸子
インプラント歯科学	宗像 源博
小児成育歯科学	船津 敬弘
口腔機能管理学	古屋 純一
歯科麻酔科学	増田 陸雄
総合内科学	馬場 一美 ※
医科歯科連携診療歯科学	馬場 一美 ※
口腔機能リハビリテーション医学	馬場 一美 ※
障害者歯科学	馬場 一美 ※
顎関節症治療学	菅沼 岳史

※ 教授代行および研究分野責任者



岩内 洋太郎さん
2020年3月 博士課程修了
昭和大学歯学部歯科補綴学講座 助教
ITI scholar, Department of Reconstructive Dentistry, University of Basel

修了生の活躍

デジタル歯科の分野で、現在はバーゼル大学(スイス)で研究

私は学生時代から補綴分野、特にDigital Dentistryに興味を持ち大学院進学を決めました。昭和大学は当分野に早くから力を入れており、Digital機器が非常に充実しています。この恵まれた環境で従来の補綴臨床技術は勿論のこと、最先端の機器を使いながら、どうすれば面白い研究になるか? 相手に伝わるか? といった発想力も鍛えられた大学院時代でした。私は口腔内スキャナーの臨床研究をテーマに、光栄

な事に大学院時代に学会発表や多くの賞を受賞できました。現在は今までのキャリアが認められ、国際的な学術組織であるITI(International Team for Implantology) scholarに選ばれ、スイスのバーゼル大学でインプラントとDigital Dentistryに関する研究を行っています。今後は昭和大学に戻り、留学で得た知識も含め、多くの皆様に還元していきたいと考えています。

基礎研究の力で 臨床の問題解決に挑戦する

研究の
現場を
訪ねて

障害者歯科学 / 口腔病理学

院 生 3年次

徳増 梨乃さん

専門性をもって歯科の道を究めたいと考えた徳増梨乃さんは、臨床歯科医として昭和大学歯科病院の障害者歯科に勤務しながら、大学院で口腔病理学の研究に取り組んでいます。

障害者歯科に入局する際「臨床と大学院を同時に進めたい」と障害者歯科学の船津敬弘教授に相談しました。その結果、週に3日間は大学院で研究に専念し、2日間は障害者歯科に勤務するスケジュールが決まりました。大学院における専攻は口腔病理学で、研究テーマは唾液腺の再生です。

「ヒトの唾液腺はいろいろな上皮細胞で構成されています。私が研究している筋上皮細胞もそのひとつ。この細胞がどのような性格を持っているのか解析することで、将来的に、失われた唾液腺の細胞を体外でつくって移入したり、残存している唾液腺を活性化する薬を開発したりすることにつながると考えています」

徳増さんを指導する口腔病理学的美島健二教授は、世界的な唾液腺再生の研究者です。

「自己免疫疾患のシェーグレン症候群の患者さんは、唾液腺の組織を調べると唾液をつくる細胞が壊れてほとんどなくなっていることがあります。また、口腔がんの患者さんに放射線治療を行うと、その副作用で唾液の分泌が1/3くらいに減ってしまいます。回復するには外から唾液腺の細胞を移入するしかありません。徳増さんたちの研究によって再生した唾液腺の細胞を移入できるようになれば、このような患者さんの治療ができると期待しています」

唾液腺の再生を目指して 先輩研究者の業績を拡張する

徳増さんと同じ障害者歯科の先輩も、以前美島教授のもとで同じ研究テーマに取り組みました。駅伝のたすきを受け渡すように、大学院で学ぶ歯科医師が唾液腺に障害のある患者さんの治療に向けた研究を続けています。徳増さんは障害者歯科の臨床にあたってるときも、唾液腺再生の基礎研究との結びつきを感じます。「障害者歯科にもシェーグレン症候群や自己免疫疾患の患者さんがいらっしゃる場合があります。先輩や私の研究が、少しでも唾液腺の再生という大きな仕事の一助になればうれしいですね」

大学院に進んで間もないころ、徳増さんは実験でデータを集める際、思い通りの結果にならずに思い悩むことがありました。周囲にいる大学院生に悩みを打ち明けると「私もそうよ」と話してくれました。「失敗するのは自分だけじゃない」と気がついた徳増さんは、みんなと励まし合いながら実験を続け、それまでなかった「強さ」



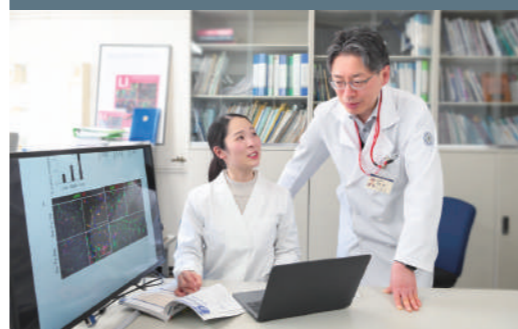
指導教員 船津 敬弘 教授

や「粘り強さ」を身につけていきました。

障害者歯科の船津教授も、大学院で研究に取り組む徳増さんの成長を感じています。「基礎研究では実験計画の立案から実施、振り返りなどを繰り返します。その中でつまづいたり克服したりする経験を積んでいると思います。それが、臨床でも患者さんの治療計画の立案や診療に応用できるはずですよ。また、誰にでもわかりやすく学会発表する力は、患者さんに病気や診療について説明する力にもつながります。今後は障害者歯科の専門医資格の取得を経て、臨床も研究もがんばってほしいですね」

徳増さんは「障害者歯科は高い技術だけでなく、豊かな人間性が求められる診療科」だといいます。患者さんとのコミュニケーションがとりにくいことや、ご家族を含めた全人的な診療が必要だからです。大学院における基礎研究で身につけた「強さ」や「粘り強さ」が、障害者歯科でも必ず生きてくると徳増さんは信じています。

※学年・役職は2024年3月現在



指導教員 美島 健二 教授

私立最多の大学院生が 在籍している薬学研究科で学ぶ 4学部が融合した チーム力を基盤とする多様な研究・教育

研究科長 野部 浩司
Koji Nobe



昭和大学大学院薬学研究科は、1969年(昭和44年)に修士課程の大学院として開設し、その後、薬学部の薬剤師養成課程6年制に対応して2011年(平成23年)より4年制の博士課程へと移行しました。半世紀以上にわたる長い歩みの中で高度な薬学研究と教育を実施してまいりました。特に昭和大学が誇る高いチーム力を活かし、基盤となる薬学領域から高い応用力が求められる臨床薬学領域まで、多岐にわたる研究分野で有能な人材を輩出してきました。

現在、薬学研究科では「問題点を自ら発掘」し、それを「解析・研究」して「解決策を見いだす」ことのできる人材育成をめざしています。その実現のため個々の大学院生に対応した様々なコース、カリキュラムが用意されています。これらの中には、医学、歯学、保健医療学の各研究科との共同研究や、

附属病院での臨床研究、新薬開発研究など、昭和大学大学院でしか成し得ない多くの学びの機会が含まれています。さらに、大学院生のニーズに応えた種々の奨学金制度や早期修了制度。加えて、本学大学院の臨床研修薬剤師制度と並行して大学院進学が可能な社会人受入制度などが充実しており、在籍者数100名を越える私立薬学系大学院では名実共に日本一の規模となっています。

私たちは、薬学研究科修士課程生が、それぞれの分野のプロフェッショナルとして医療や社会をより良い方向に導くリーダーとなることを期待し、可能な限りの指導とサポートを続けています。ぜひ薬学研究科で研鑽を積み、未来を創造する力を手にしてください。

研究分野および研究分野責任者 (2024年4月1日現在)

薬学教育学	小林 靖奈	衛生薬学	原 俊太郎
医薬化学	福原 潔	薬剤疫学	今井 志乃ぶ
生体分析化学	加藤 大	薬物治療学	向後 麻里
生物物理化学	合田 浩明	天然医薬治療学	川添 和義
生物化学	板部 洋之	感染制御薬学	石野 敬子
腫瘍細胞生物学	柴沼 賢子	がんゲノム医療薬学	藤田 健一
毒物学	沼澤 聡	臨床栄養代謝学	千葉 正博
薬理学	野部 浩司	臨床研究開発学	肥田 典子
薬剤学	中村 明弘	臨床病態学	磯崎 健男
薬物動態学	佐藤 均	病院薬剤学	田中 克巳
社会薬学	岸本 桂子		



修士課程生の活躍

生物化学の基礎研究を病院薬剤師の強みに

好中球細胞外トラップ (NETs) は好中球の新たな細胞死の反応で、動脈硬化症をはじめ多くの疾患に関与することが報告されています。博士課程では生物化学分野に在籍し、動脈硬化抑制因子である高比重リポタンパク質 (HDL) が NETs 形成の抑制作用を持つことを明らかにしました。大変なこともありましたが、基礎研究を通して生体内の事象を明らかにする面白さを知りました。

現在は病院薬剤師として勤務していますが、症例に関する様々な臨床上の問題点に対し、基礎研究の経験を活かして検討し評価ができることは一つの強みだと思います。博士課程で学んだ論文の読み方や書き方は臨床研修薬剤師の学会発表のサポートにも役立っています。今後は学部の研究室と横断的に研究ができる本学の体制を活かした研究にも挑戦してみたいと考えています。



大日方 瞳さん
2023年3月 博士課程修了
昭和大学 薬学部 病院薬剤学講座
助教・昭和大学藤が丘病院

問題の本質を理解し 臨床と研究の架け橋になる

生体分析化学

院 生 3年次

大島 有貴さん 指導教員 加藤 大 教授

大学の研究室配属で取り組んだ研究テーマを大学院でさらに探究する大学院生もいます。大島有貴さんは、バンコマイシンという抗菌薬の投与設計法について薬学部4年次から取り組んできました。

バンコマイシンの投与計画では、投与した患者さんの血中の薬の濃度を測定しています。これをもっと簡便に尿中の濃度から測定する方法を先輩が研究していました。大島さんがその研究を引き継いで進めていたところ、2022年より投与設計ガイドラインが変更され、血中濃度をグラフ化し、その面積から求めることになったのです。これでは何回も採血をしなければならず、患者さんはもちろん、看護師など医療従事者にも負担がかかります。大島さんはこの問題を解決するため、早期に尿中濃度からの測定を実現すべく、さまざまな技術を試しました。

「採取した尿を遠心分離機にかけて沈殿物を除去します。さらに検出がしやすいように処理をしたうえで、蛍光分析と高速液体クロマトグラフを用いてバンコマイシンの量を測定しました」



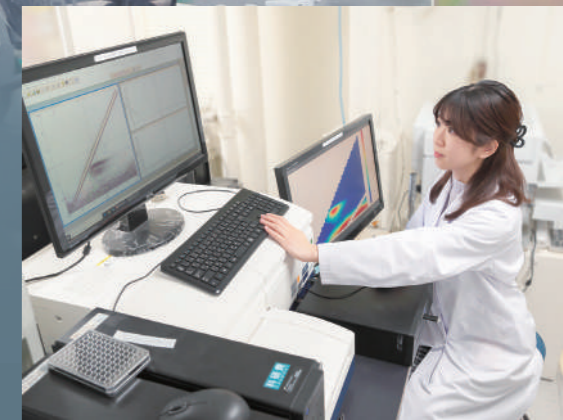
100を超える条件で 測定方法を実験する

「検出がしやすいように処理する」ことがこの研究の眼目です。尿を希釈したり、ろ過したり、pHを調整したり、抽出に有機媒体を使うなどありとあらゆるパラメーターを試しました。組み合わせは優に100を超え、一つひとつ実験で検証しました。「未知の解析方法を手探りで見つけていきました。めどがついたところで附属病院の協力を得て患者さんの尿を採取してみると、予想よりも尿中のバンコマイシン量が多いことがわかりました。それで研究がふり出しに戻り、心が折れそうになったこともあります」

そんな大島さんを支えたのは、指導教員の加藤大教授の言葉でした。

「バンコマイシンの濃度が高いなら、逆に測定しやすくていいじゃないか。あまり正確に測ることだけを考えずに、臨床の現場で容易に測定できることに軸足を移したらどうだろう」

大島さんは考え方を切り替えて、尿に不純物が混ざっていても簡単にバンコマイシンが測れる方法を探ることにしました。加藤教授は、これが大島さんにとって研究の本質を理解することにつながったといいます。「大島さんの研究は、もともと臨床現場のニーズに根ざしたものでした。実験室で構築した解析方法が臨床では応用できなかった。それならば解析方法を臨床にあわせて変えていかなければいけない。深く考えて向かう方向を考える人間



になるのが大学院だからです」

大島さんは学位を取得した後、薬剤師として活躍しながら臨床と研究の架け橋になりたいと話します。

「私が大学院で取り組んだのは分析なので、研究室で完結する場合があります。その一方で病院では何かの物質を測定したり、分析をしたいというニーズがたくさんあります。今回の研究で培った経験は、両者を結びつけるために生かせると思うのです」

昭和大学はチーム医療を強く推進している大学です。それは臨床の現場だけではなく、研究室と病院が地理的に近いこともあり、基礎研究と臨床でも連携し、意見を述べ合い、一つの「チーム」として成果を生み出す環境が整っています。学位を取得した際には、大島さんは研究力を身につけた薬剤師として、研究と臨床を結びつける存在となるに違いありません。

※学年・役職は2024年3月現在

研究の
現場を
訪ねて

幅広く多彩な研究領域において、保健医療学の専門職教育を担う研究・教育者を育成

保健医療分野の職種を越えた「知と技術の体系化」を目指すとともに、保健医療学の学問的体系に基づいた高度専門職者の教育を担える研究者・教育者の育成を行います。現代社会で生じる健康問題や、それらに関与する多面的要因に関する研究を行い、最新の科学的知見と、それに基づく保健医療の実践を社会に向けて発信しています。

保健医療学において、幅広い専門職種が学びを深められるように多彩な科目を開講し、学びたいと思われる方々に広く門戸を開いています。社会人の大学院生のために、学ぶ方々の都合を考慮して開講していますので安心して学ぶことができます。

博士前期課程は、論文を作成する論文コースと保健医療の高度実践を習得する専門コースがあります。論文コース

研究科長 三村 洋美
Nadami Mimura



には4つの分野、19の領域があります。所属する分野・領域以外からの学びも取り入れて研究に取り組めるように科目を準備しています。広がりのある保健医療学の研究に取り組めます。専門コースでは、CNS(高度実践看護師)、医学物理士、認定遺伝カウンセラーを目指すことができます。令和6年度よりアスレティックトレーニング学を開設しアスレティックトレーナーの育成を開始しました。高度実践者になるための単位取得が可能です。多彩な研究領域に触れながら研究と実践をバランス良く高めることができます。

博士後期(博士)課程は、4つの専門教育研究分野で構成されており、保健医療学分野の学術の理論構築および応用の開発に取り組み、高度な専門職業人として、これからのチーム医療を創造する研究・教育者の育成を行います。

研究分野および指導教員 (2024年4月1日現在)

博士前期課程	分野	領域	指導教員		
医系基礎・専門・教育		形態解剖学	伊藤 純治		
		病態生理学	下平 和久		
		統合医療学	田中 晶子		
		医療マネジメント学	上條 由美		
		医療人教育学	榎田めぐみ		
		臨床栄養学	安部 聡子		
看護		臨床看護ケア開発学	三村 洋美		
		コミュニティケア開発学	富田真佐子		
		看護マネジメント学	大崎千恵子		
論文コース	リハビリテーション	生体機能学	田代 尚範		
		運動機能学	加賀谷善教		
		中枢神経機能学	中村 大介		
		精神機能学	鈴木 久義		
		言語聴覚機能学	小林 一女		
		視覚機能学	岩淵 成祐		
	医療技術	臨床検査学	安原 努		
		診療放射線学	加藤 京一		
		臨床工学	大石 竜		
		口腔保健学	弘中 祥司		
		博士前期課程	専門コース	老年看護学	三村 洋美
				精神保健看護学	榎田めぐみ
がん看護学	渡邊 知映				
遺伝カウンセリング	渡邊 知映				
医学物理教育	宮浦 和徳				
アスレティックトレーニング	加賀谷善教				
博士後期課程	論文コース	医系基礎・専門・教育	伊藤 純治		
		看護	三村 洋美		
		リハビリテーション	加賀谷善教		
		医療技術	加藤 京一		



龍 由季乃さん
2023年9月 博士後期課程修士
昭和大学保健医療学部
看護学科 客員講師

修士生の活躍

看護師と家庭も両立させ、研究を継続していきたい

博士後期課程では基礎看護学の領域で、看護ケアによる患者と看護師への効果について、生理学的な視点から研究しました。大学院在籍時は病院での看護師業務と育児と研究の両立が課題でした。データ採取には現場の方にご協力いただき、研究は指導教授の先生方のご尽力もあり、看護ケアの効果を示すことができました。私自身、看護師として日常的に行う看護ケアが患者にも看護師にも有益であるという見解

は、仕事へのモチベーションに繋がると思います。

博士前期課程では農学を専攻し、動物介在療法(アニマルセラピー)の効果について研究していたので、この度の経験を経て、看護的な視点から動物介在療法についての研究も継続したいと考えています。育児と研究の両立の仕方は模索中ですが、周囲の協力を得て形にできたことは、大きな実りとなりました。

臨床教員を目指して深く探求する力を高める



言語聴覚機能学

院 生 前期課程1年次

指導教員

中原 甲斐さん 小林 一女 特任教授

中原甲斐さんは、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院で言語聴覚士として勤務しながら、学位取得を目指しています。その理由は将来、臨床教員として後進を指導したいという気持ちが強くなったからです。

「大学に入学した時点では、言語聴覚士という仕事に深い理解がなく、その魅力についても実感していませんでした。在学中に言語聴覚士の仕事について先生から教えていただき中で、だんだんと興味を持つようになったのです。私も同じように、学生を楽しませながら言語聴覚士の魅力を伝えていきたいと思うようになりました」
リハビリ病院では、以前から理学療法士や作業療法士の先輩が大学院に進学していました。勤務と大学院を両立できるのか先輩たちに相談して、自分にもできるという確信が得られました。「ちょうど入職して3年目で、新しいことに挑戦したい時期でした。昭和大の附属病院は大学院に進むことを応援してくれる環境なので、研究と勤務を両立できているのだと思います」

中原さんは「言語聴覚機能学」(2023年度開設)



を専攻する第一期生です。後に続く後輩のためにも、勤務と両立することを証明できるように無理のないスケジュールを工夫しました。

言語聴覚士の大学院一期生として後輩に研究の魅力を伝える

中原さんの研究テーマは「鼻咽腔閉鎖機能不全患者の治療方針決定の指標確立を目指した健康成人の鼻咽腔閉鎖機能に関する調査」です。「鼻咽腔閉鎖機能不全」は、口蓋裂術後や先天性鼻咽腔閉鎖不全症、上顎癌・軟口蓋癌治療、脳血管疾患、神経筋疾患など多様な原因で起こります。機能不全の患者さんは、声が鼻にかかる「開鼻声」や、呼吸が鼻に抜けることで発音が弱く聞こえる「呼吸鼻漏出による子音の歪み」などの異常な発話を呈し、日常のコミュニケーションにも支障をきたすことが知られています。中原さんは研究の意義について次のように説明します。

「言語聴覚士が患者さんの声を聴いて評価する『聴覚判定』でも、開鼻声や子音の歪みの程度から鼻咽腔閉鎖機能不全の状態を予測することはできません。ただ、聴覚による主観的な判定なので、客観的な指標になりにくいという課題がありました。そこで鼻咽腔ファイバーで喉の奥の鼻咽腔が閉じているかどうか画像や動画で確認する、ナゾメータで発話時の鼻漏れを定量的に計測するなど、機器を用いた客観的な評価をあわせて行いました。今回、健康者を対象とし、主観的な判定と客観的な判定を総合的に行うことで、適切な治療方針の決定が可能になりえる



か多くの知見を得ることができたと思います」

指導教員の小林一女特任教授は、中原さんの大学院における研究は臨床でも役立つと話します。「論文にまとめた研究のほかにも、さまざまな症例について自分で調べて2週間後にプレゼンテーションしてもらおうというトレーニングも数多く行ってもらいました。疑問について深く探究するのが大学院生。臨床の現場でも自分で疑問に感じたことを突き詰めて考えることができるようになります。将来、後進の研究を指導する立場になったときも、情報の集め方などをアドバイスできるようになるでしょう」

医療系大学には、診療、研究、教育という3つの役割があります。中原さんが臨床教員として学生を指導するとき、大学院での自身の経験をもとに、臨床疑問を研究する醍醐味を伝えることができます。それが探究心あふれる次世代の言語聴覚士を育てることにつながっていくのです。

※学年・役職は2024年3月現在

保健医療学研究科

【博士前期課程】

論文コース 医系基礎・専門・教育分野

形態解析学

当領域では「ヒトおよび動物の正常構造と機能」を基にマクロからミクロのレベル、さらに遺伝子レベルまで幅広い範囲で基礎的研究を行います。対象領域として肉眼解剖学、比較解剖学、組織・細胞学、生理学、生化学などが含まれます。ヒトを対象としてリハビリテーション領域の臨床につながる研究も行うことができます。また、マウスやラットなどをを用いた動物実験による研究も行うことができます。職種や有する資格(免許など)は問いません。

医療マネジメント学

少子高齢化、医療の複雑化、医療費増大など医療における課題はたくさんあります。安定的な病院運営のためには、データに基づく解析と多職種を活かす組織運営が必要です。当領域では、医療現場において、質の高い医療サービスを効率的に提供するために必要なマネジメント能力を発揮できる人物の養成を目指しています。医療の質改善、地域連携、病院経営、運営管理、災害時の対応など様々な分野における専門的な研究を行っています。

論文コース 看護分野

臨床看護ケア開発学

臨床における看護ケアに関する研究を行います。看護技術や看護ケア評価をはじめ患者教育、臨床看護師のスキルアップ教育と幅広いテーマの研究を行います。臨床看護の実践を科学的に説明することを目指しています。看護師、助産師をはじめ看護のライセンスを持つ方、介護の専門職者の方や福祉系の方も研究ができます。

論文コース リハビリテーション分野

生体機能学

呼吸、循環、消化、泌尿路など身体内部の様々な臓器障害に対するリハビリテーションについて研究を行い、最新の知見や技術を発信していきます。集中治療室で行う高度急性期医療から回復期・在宅医療に至るまで、リハビリテーションを通して得られる効果を検証します。加えて、当領域における自己の専門性を活かし、全人的医療を実践する人材を育成します。

精神機能学

精神機能学では主として、精神保健上の問題を抱える対象者・家族、精神保健医療福祉従事者自身を対象として研究を進めることになります。また、精神保健医療福祉従事者に対する教育に関する研究も同等に重要です。臨床現場における種々の問題の解決につながる研究を展開するために必要な基礎的学力を得ることを目的としています。所属院生は作業療法士、保健師、看護師、理学療法士、社会福祉士および精神保健福祉士等を想定しています。

病態生理学

当領域では人体の正常機能が破綻することによって引き起こされる疾患や症状の機序などの解明、さらにその予防や回復に関する研究を行います。対象分野は運動器、呼吸器、消化器、循環器、生殖器、神経系、代謝・体液系、内分泌系など広範囲にわたります。研究内容は医学、リハビリテーション学、看護学が基本となり、研究遂行には様々な先端的な研究手法を用います。ヒトを対象とするだけでなく動物実験による研究も行います。

医療人教育学

臨床の場において高度な実践力を発揮しつつ教育者としての立ち位置を持つ教員と、研究力も兼ね備え教育の場で活躍する大学教員の育成を目指します。医療専門職としての資質や能力をいかに育むか、学修成果をどのように測定するか等を探究し、大学教育や現任教育に活かせるようにしています。学修方略や学修成果に関する研究、教員に求められる能力の抽出等、研究テーマは様々です。

統合医療学

当領域では、保健医療学全般にわたる幅広い分野の研究を行っています。とくに地域医療の取り組み、地域との連携など、これからの医療の在り方を多角的な視点から捉え、医療・社会・生活者を見つめ研究に繋げています。その根底の視点として、人間を社会や自然環境との調和の中で生きている全体的(ホリスティック)な存在として捉え、また人間には自然治癒力が備わっているという視点を大切に研究を行っています。

臨床栄養学

栄養学は、人々の健康に深く関与していることから、予防から疾病の治療食まで幅広い分野があります。当領域では、臨床栄養学に加えて、看護やリハビリテーション分野における栄養学領域を広範囲に取り扱います。研究内容は、臨床における治療食の効果検証の他、看護師が患者のために実施する栄養ケアや食生活のサポート、リハビリテーション栄養やスポーツ栄養等、運動実践に必要な栄養補給方法の研究も行っています。

看護マネジメント学

すべての看護職は看護業務を管理しているといわれるように、看護管理は管理者だけが行うわけではありません。当領域では、看護の目的である質の高いサービスの提供を実現するために、看護マネジメントの視点から必要な要素を探索します。具体的には、人材育成や業務管理、医療の質保証、目標管理、組織内コミュニケーションなどのテーマをとおして、臨床での疑問や課題を解決に導くことができる能力を育成します。

中枢神経機能学

脳卒中などの脳損傷によって、感覚機能・運動機能・認知機能(高次脳機能)・精神機能などADL能力の向上を妨げる大きな要因となります。主に中枢神経系が関わる諸機能についてリハビリテーションの対象となる障害を全人的に捉え、認知機能障害や身体機能障害の症状特性に関して学修します。健康で質の高い生活を営むだけでなく、臨床研究を推進して運動障害に悩む対象者のリハビリテーションの開発研究を行う分野です。

視覚機能学

眼球運動、視空間認知、視覚情報という視覚機能を基本として視覚に関連した研究を行う領域となります。視覚機能士の方、視覚検査やリハビリテーションに興味がある方の研究を支援します。

各分野・領域のご紹介

【博士前期課程】

論文コース 医療技術分野

臨床検査学

臨床検査は医療を行う上で欠かせない領域の一つです。診療、看護、他の検査、治療を実施する上でも患者の状態を客観的に判断できる方法です。基礎教育でも多くの検査や疾患を学んでいますが、検査結果を深く正しく読み込むためには検査の原理を正しく理解する必要があります。また、新規の検査も出現し新たな知見も発見されています。臨床検査学は検査の意味を理解し判断するための知識を学び、研究する領域です。

診療放射線学

放射線に関する撮影技術、検査技術、放射線治療技術、放射線測定技術、放射線管理技術などについて研究を行っています。また、チーム医療やスタッフ教育に関する教育、研究、医療人として、また組織人の育成も行っています。診療放射線学技術の最新知見、医療従事者の教育指導法を学修、研究することによって、放射線診断領域や医療現場でリーダーシップを発揮する能力を持つ診療放射線技師ならびに医療従事者を育成します。

臨床工学

臨床工学領域の基礎学力および人工呼吸・体外循環・血液透析などの各分野における専門知識を幅広く学修するとともに、最新の医療機器についての理解を深めることによって専門知識と広い学識を修得し、医療現場でのリーダーならびに教育者を育成します。また、機器管理の実務的専門家として、医療安全工学の観点から医療現場での事故防止や医療機器開発に関連する研究を行うこともできます。

口腔保健学

口腔保健学では口腔から全身の健康を支援し、生活の質を高める取り組みや効果的な口腔健康管理システムの開発・研究を行っています。妊娠期からのすべてのライフステージにおいて口腔健康管理を行いながら口腔機能の維持・向上に向けた力を発揮できる人材の育成に取り組めます。口腔保健の専門的立場から幅広い他の領域や分野とも連携を図り、国民の健康寿命延伸に寄与するための基盤をつくることを目的としています。

専門コース 専門看護師(CNS)分野

老年看護学

高度実践看護師課程(38単位)として、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供できる高度な看護実践能力を育成します。急性期病院から在宅という幅広い視野で、老年者の健康の回復や増進を支える卓越した看護実践能力を身につけます。老年看護に興味があり、高度な実践能力を身につけたいと考えている看護師(実務経験5年そのうち3年は専門分野で実践が必要です)。

精神保健看護学

精神保健上の問題を抱え、地域で治療やリハビリテーションを受けている対象や療養中の対象への高度なケアを提供できる。また社会の人々の精神的な健康を守ることで社会に貢献できる精神看護専門看護師の育成を目指します。精神科救急医療はもとより、地域における多様な精神保健看護分野への要請に対応でき、そして精神看護専門看護師の役割や機能、社会的な価値について実績を示して説明できる専門看護師を養成します。

がん看護学

本学の強みである最先端のがん医療とそれを支えるチーム医療を講義・実践・研究を通して学びます。ケアとケアを統合してがんを持つ人を全人的に支え、がん患者とその家族に貢献できる精神看護専門看護師の育成を目指します。がん看護実践能力を身につけます。高度実践看護師課程(38単位)として認定をうけ、がん看護専門看護師の育成を目的とします。

専門コース 遺伝カウンセリング分野

遺伝カウンセリング学

認定遺伝カウンセラーは、最新の遺伝医学の知識を持ち、遺伝医療を必要としている患者や家族に、適切な遺伝情報や社会の支援体制等のさまざまな情報提供を行い、心理的・社会的サポートを通して、当事者の自律的な意思決定を支援する保健医療専門職です。本コースは、認定遺伝カウンセラー制度による遺伝カウンセラー教育課程として認定されており、単位取得することで認定試験の受験資格を得ることができます。

専門コース 医学物理教育分野

医学物理学

医学物理学とは、理工学の知識・成果を医学・医療に応用・活用することを目的とする学問です。本分野は、放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う者として、放射線を用いた医療が適切に実施されるように、医学物理の専門家である医学物理士の育成を目指しています。対象は、理工学系・放射線技術系学士の学位を有している方です。本邦では医学物理士の数が圧倒的に不足しており、今後ますます発展が期待される領域です。

専門コース アスレティックトレーニング分野

アスレティックトレーニング学

アスレティックトレーニング学とは、スポーツを行う者に対するスポーツ傷害の予防とケア、パフォーマンス向上を目的に、学際的な研究成果とスポーツ現場での実践を融合させる応用科学です。本コースでは、スポーツ現場での実習を通じて実践研究を具現化できる人材を育成します。また、日本スポーツ協会によるアスレティックトレーナー(JSPO-AT)免除適応コースとして承認されており、単位取得することで認定試験の受験資格を得ることができます。

【博士後期課程】

論文コース

医系基礎・専門・教育分野

前期課程の「医系基礎・専門・教育領域」の各領域で行われた研究内容をさらに発展させ、新知見を探索、発見する研究を行います。基礎・臨床に関わる実験・観察系の研究だけでなく、マネジメントや教育に関する応用研究も含まれ、多種多様な研究方法を用います。ヒトを対象とする研究だけでなく、動物実験による研究も行っています。得られた研究成果は広く全世界に発信します。職種や有する資格(免許など)は問いません。

看護分野

保健医療学の中の看護学の学問体系において研究を行います。社会の要請に応えるべく高度な看護実践や看護管理の科学的根拠となる研究を行います。博士前期課程の看護分野とつながりを持ち、さらに高度で独創的な研究へと進めます。学問の発展に寄与する研究成果は世界に発信します。保健医療学のリーダーとなる教育者、研究者を輩出します。看護師、保健師、助産師、看護学に興味のある方(博士前期課程(修士課程)を修了していることが必要です)。

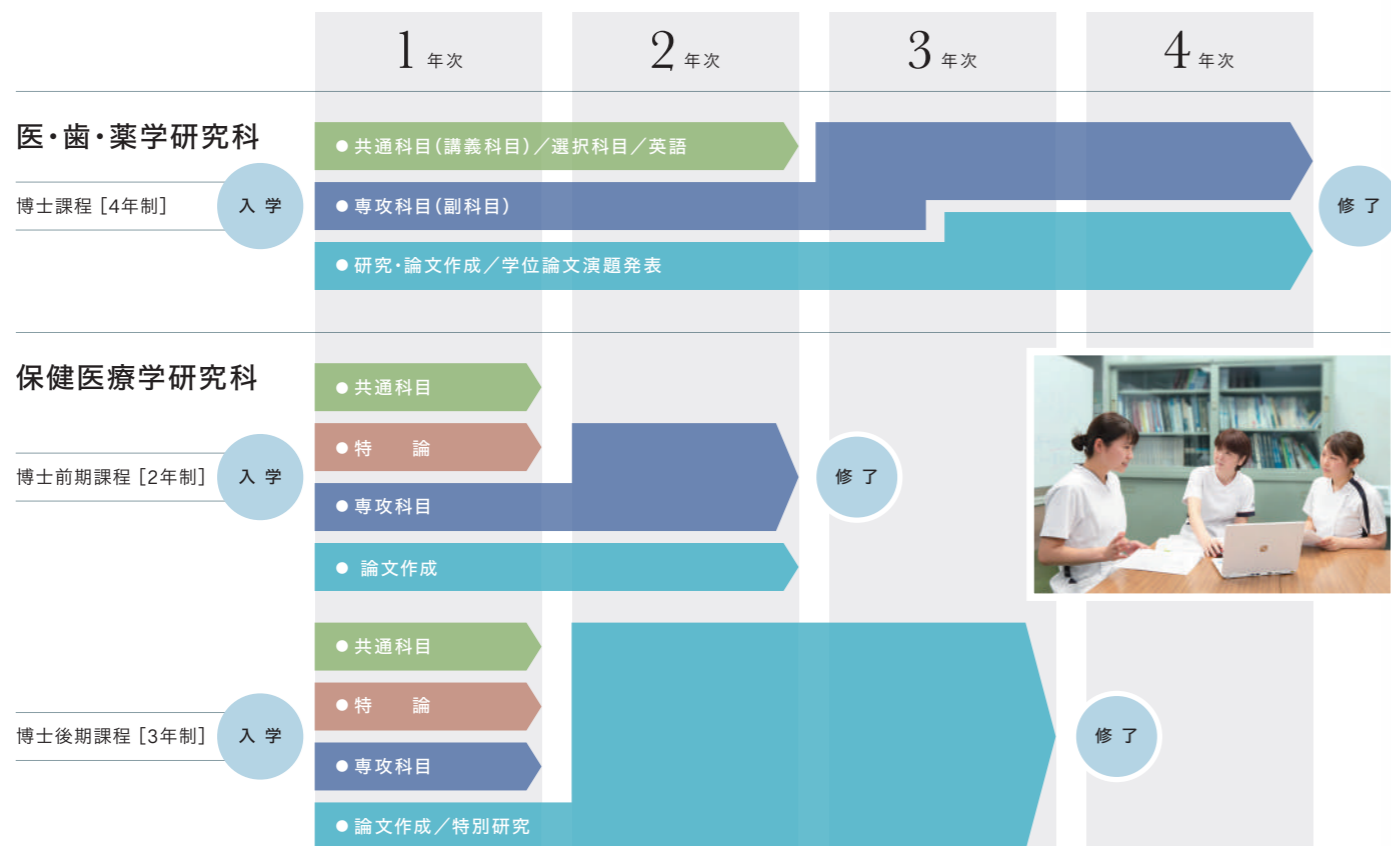
リハビリテーション分野

リハビリテーション分野は、中枢神経障害や呼吸器・循環器・代謝系障害、運動器障害や精神保健上の問題など多岐に渡ります。博士後期課程では、博士前期課程におけるこれらの部門で培われた知識を基に、より先進的な研究に取り組み基礎研究だけでなく臨床研究を活性化していきます。さらに、研究責任者として研究の企画・実践ができるだけでなく、後進の指導や論文の査読ができる段階に到達できるような能力を養います。

医療技術分野

医療技術領域は、臨床検査学、診療放射線学、臨床工学、口腔保健学の各領域における基礎知識、専門知識を学修するとともに、最新の知見や理解を深め、幅広い学識を修得し、医療現場でのリーダーならびに教育者を育成します。また、各領域の専門家として、医療安全も含めた医療現場での中心的人材を育成し、さらに、研究責任者として研究の企画・実践ができ、加えて後進の指導や論文の査読ができる人材を育成します。

カリキュラム



共通科目
大学院での研究を開始するにあたり、研究の進め方、科学論文の読み方、実践の基礎および実験結果の統計的処理方法など、研究者に共通の知識・技術について学びます。全研究科の在籍者が受講できます。

- ◎ 生体の組織構造解析法
- ◎ 分子生命科学的解析法
- ◎ 生体の病理病態学的解析法
- ◎ 医学生物における統計学的解析法
- ◎ 生体の機能解析法
- ◎ 研究倫理・教育・AI
- ◎ 生体内の物質分析法

専攻科目 (副科目)
共通科目で基礎教養を修得したのち、専攻科目で専門分野について深く学びます。実習・演習を主とし、論文抄読等も含め、指導教員による少人数制指導が行われます。

学位論文演題発表
学位論文は、研究科主催の発表会または学内学会である昭和大学学士会で全員が演題発表を行います。

共同研究施設

昭和大学では各学部・研究科等に共通する研究の充実のために、5つの共同研究施設があります。

1 遺伝子組換え実験室

動物実験による遺伝子組換え実験室。微生物や動物細胞を用いた遺伝子組換えを行う実験や遺伝子組換え動物の飼育・繁殖、実験を行う施設の管理と運営を行っています。本学研究者が登録をして利用できます。

2 電子顕微鏡室

透過電子顕微鏡、走査電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡などを用いた、超微細構造形態や3次元解析などの研究・教育を行うバイオイメージングの共同施設です。本学教職員、大学院生、研究生等は指定の講習を受けることにより利用できます。

3 分子分析センター

質量分析、核磁気共鳴装置など、共用性の高い機器分析装置を維持管理する共同施設です。装置操作の技術指導や、装置メーカー担当者等を招いたセミナー講習会を教員・学生へ随時行っています。本学学部学生や大学院生、教員、学外共同研究者が利用できます。依頼測定にも応じています。

4 動物実験施設

実験動物を適正に飼養・保管し、動物実験等を適正かつ安全に遂行するための施設です。

臨床医学共同研究室

主に医学部の臨床系講座が利用している研究室です。デジタルPCRシステム、マルチプレックスアッセイシステム、DNAシークエンサー、リアルタイムPCR解析システム、フローサイトメトリーシステムなどの様々な研究機器のほか、組織染色実験や細胞培養実験などの設備を設置しており、機器の使用説明会やセミナーなども行っています。



4大学院連携がんチーム医療

各大学の特色あるがん医療を学び、さまざまな場面で貢献できる人材を養成

がん治療は、多職種が連携して患者さんを支えるチーム医療の代表的な分野です。大学病院での先端医療から在宅での緩和医療まで、その範囲も広く、チーム医療の組み合わせや目的も多岐にわたります。こうした背景から、さまざまな場面で貢献できる力を養うため、2014年度から東京慈恵会医科大学、星薬科大学、上智大学と連携し、4大学院共通科目「がんチーム医療」を開講しています。各大学の特色あるがん医療の授業を受講するとともに、多職種の大学院生がグループで最適な治療やケアを討議・提案する、ワークショップを開催しています。



昭和大学統括研究推進センター

SURAC

大学院在学中も卒業後も、研究に関する様々な支援が受けられます。

昭和大学統括研究推進センター(SURAC)では、大学院生を含めた研究者向けの教育や研究相談、研究倫理審査、競争的資金の獲得、各種研究費の執行管理や知的財産・発明申請など研究に関する支援を行い、研究者が臨床業務を行いながら研究を両立できる体制づくりを推進しています。臨床研究に関わる倫理審査の手続き、論文作成、統計解

析など、研究に関する様々なご相談を受け付けています。お気軽にお問合せください。また、学内関係者が閲覧可能な研究に関する教育コンテンツも公開していますので、これから研究活動をはじめると大学院生にぜひご活用いただければと思います。



センター長 三邊 武彦

最先端の研究を支える研究所

本学の10研究所では、医系総合大学としての特色を生かし、4学部および附属病院の臨床と連携した学際的研究を推進しています。その成果は、新たな治療法の確立や新薬開発への礎となり、医学の発展に大きく貢献しています。



Clinical Research Institute for
Clinical Pharmacology & Therapeutics

臨床薬理研究所

所長 小林 真一

本研究所は、2011年に昭和大学附属烏山病院内に設立された研究専用ベッド44床を有する研究施設で、第I相(FIH: First In Human)試験などの早期探索的試験や臨床薬理試験を実施しています。

2020年4月に臨床免疫腫瘍学部門、翌年4月に臨床腫瘍診断学部門が開設され、がん免疫療法に係る先端的な研究が、さらに9月には薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門が設置され、他大学にない薬学的発想に基づく臨床研究も可能となりました。臨床薬理研究所は昭和大学の各附属病院や各学部の講座等と協同して、医療に貢献できるエビデンス創出を目指しています。

The Mt. Fuji Institute
For Nature and Biology

富士山麓自然・ 生物研究所

所長 平井 康昭

富士山麓自然・生物研究所は、富士山麓の自然環境と生態系の保全に寄与することを目的として2022年5月に開所しました。標高3776mの活火山である富士山の裾野には、富士五湖を含む水域や、人為的な影響が大きい伐採地から国立公園までを含む陸域が存在します。2013年に世界文化遺産に登録され、山麓地域を包含した保全の取り組みがより一層求められています。今後は自然環境と生態系の調査・研究に加えて学生への教育普及活動にも取り組み、さらに地方自治体が行う自然環境調査や市町村史編集に協同して、富士山麓の保全に貢献しようと考えています。

Advanced Cancer Translational
Research Institute

先端がん治療研究所

所長 鶴谷 純司

先端がん治療研究所は、基礎研究や臨床研究を通じてがんの診断・治療・予防技術の開発を推進します。細胞株や動物モデルを用いた基礎研究の経験や、また血液や腫瘍検体を用いたトランスレーショナルリサーチのための基礎知識を学びます。

さらに、2022年3月には昭和大学病院内に先端がん治療研究臨床センターが設置され、治験、特定臨床研究、医学研究を経験することが可能です。基礎と臨床を融合したがんのトランスレーショナルリサーチのトレーニングを通して、研究者を目指してみませんか。

Brain Function Analysis &
Digital Medicine Research Institute

脳機能解析・ デジタル医学研究所

所長 佐藤 洋輔

2018年に昭和大学は日本てんかん学会研修施設に認定され、安全確実なてんかん診療の実践と、特殊脳波解析技術を活用した脳機能研究に精力的に取り組んでいます。

また近年は、生体シグナルや医用映像などの様々な情報がデジタル化され、適切なソフトウェアやAI技術を活用することで、新たな知見や発明がもたらされる可能性が高まっています。脳機能解析・デジタル医学研究所は、革新的かつ臨床直結型の脳機能解析研究および技術開発と、医学・医療における先進的なDx化を目的として、2023年4月に設置されました。

Research Institute for
Sport and Exercise Sciences

スポーツ運動科学研究所

所長 三邊 武幸

スポーツ健康科学分野の発展に寄与すべく、2015年4月に昭和大学藤が丘リハビリテーション病院内に設立されました。トップアスリートから運動愛好家までの運動器・内科・歯科・栄養に関する障害予防や疾病治療などを大きなテーマにしています。そして、リハビリ病院を中心に他の附属病院・各学部と連携し、それぞれの診療科・学部研究室のテーマを横断的に融合させた学際的な研究を行っています。また、学生教育や地域健康増進活動にも取り組んでいき、スポーツ医科学・健康科学を通して人間の可能性を探求する研究所を目指しています。

Institute of Stress Management

ストレス マネジメント研究所

所長 中尾 睦宏

2023年に昭和大学旗の台キャンパスに開設された研究所です。常勤スタッフは3名、研究室は2つと人員・設備は限られているので、オンラインを活用してストレスマネジメント・プログラムと一般心理カウンセリングの社会実装を当面の課題としています。研究面では、健常な方や未病の段階の方を対象としたストレスマネジメント・プログラムのランダム化比較試験を実施中です。教育面では、医学部の行動科学・医療プロフェッショナリズムを担当しています。産・官・学の連携を目指して活動をしています。

Medical Institute of
Developmental Disabilities Research

発達障害医療研究所

所長 太田 晴久

2013年に昭和大学附属烏山病院内に開設した成人発達障害専門外来を持つ研究所です。臨床集積は国内最大級であり、成人の自閉症スペクトラムと注意欠如多動性障害を主な対象として、質問紙調査からデイケアプログラムの開発、最新の脳科学研究に至るまで、発達障害に関する幅広い臨床研究を実施しています。脳科学(神経科学)の分野では、最新の3テスラMRI装置を導入して、発達障害の脳画像研究を推進しています。MRI以外にも、脳波計や経頭蓋磁気刺激(TMS)装置など、脳科学の最新の知見と技術を駆使した研究に取り組んでいます。

Institute of Clinical Epidemiology

臨床疫学研究所

所長 長谷川 毅

臨床疫学は臨床医学におけるクリニカル・クエストionsを疫学的な手法を用いて解決しようとするEvidence based medicine(EBM)の根幹を成す実践的な学問領域です。医学部だけでなく歯学部、薬学部、保健医療学部を有する医系総合大学である本学の多職種連携の特色を活かした、他にはない学部横断的な臨床疫学の研究・教育拠点として、2024年4月に臨床疫学研究所が設置されました。臨床疫学研究を通じて、本学の学術的評価の向上を図るとともに、建学の精神に沿う「実地に役立つ」より良き医療人の育成に貢献することを目指しています。

Institute for
Clinical Genetics and Genomics

臨床ゲノム研究所

所長 中村 清吾

臨床ゲノム研究所は、ゲノム医療を昭和大学が一丸となって推進していくという旗頭を掲げて、2022年4月に設立されました。まず、医療職の方には、がんゲノム医療を理解し、臨床での実践に役立つようなe-learningソフトを作成しました。また、患者さんを含む一般の方向けのソフトも作成しました。各附属病院で行われているがんゲノム検査の結果とその関連の医療情報を一元管理できるデータベースを開発し、今後様々な目的で利用できるよう整備していきます。今後は、がんのみならず、他の広範な疾病に係るゲノム情報も収集して利活用できるようにしていく所存です。

Institute of Medical Design

メディカルデザイン研究所

所長 安次富 隆

メディカルデザイン研究所は、多摩美術大学との包括連携協定のもと、医療分野におけるデザイン研究を通して、患者さんや医療従事者のQOLの向上に寄与するため、2024年4月に横浜キャンパスに設置されました。

当研究所は、世界に例のない医術と美術(デザイン)の連携による医療現場全体のQOLを向上させる手法を切り拓くことを目指しています。

大学院データ

在学生数

(2024年4月1日現在)

研究科名称		入学定員	収容定員	募集定員	在学生数
大学院	医学研究科	60	240	60	289
	歯学研究科	22	88	22	108
	薬学研究科	15	60	15	108
	保健医療学研究科(博士前期課程)	20	40	20	44
	保健医療学研究科(博士後期課程)	6	18	6	22
合計		123	446	123	571

入学試験結果

(2024年4月1日現在)

区分		志願者			入学者数			入学者の出身大学等			
		男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外	
医学研究科	2023年度 秋季	一般	1	1	2	1	1	2	1	1	0
		社会人	1	2	3	1	2	3	3	0	0
		合計	2	3	5	2	3	5	4	1	0
	2024年度 春季	I期一般	2	0	2	2	0	2	2	0	0
		I期社会人	4	6	10	4	6	10	8	2	0
		II期一般	7	1	8	7	1	8	2	6	0
II期社会人	15	7	22	13	7	20	16	4	0		
合計	28	14	42	26	14	40	28	12	0		
歯学研究科	2023年度 秋季	一般	0	1	1	0	1	1	0	0	
		社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	
		合計	0	1	1	0	1	1	0	0	
	2024年度 春季	I期一般	4	0	4	3	0	3	3	0	0
		I期社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	
		II期一般	6	12	18	6	12	18	12	6	0
II期社会人	1	0	1	1	0	1	1	0	0		
合計	11	12	23	10	12	22	16	6	0		
薬学研究科	2023年度 秋季	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	
		社会人	5	3	8	5	2	7	1	6	0
		合計	5	3	8	5	2	7	1	6	0
	2024年度 春季	I期一般	1	0	1	1	0	1	1	0	0
		I期社会人	4	10	14	4	9	13	9	4	0
		II期一般	0	0	0	0	0	0	0	0	
II期社会人	6	3	9	6	3	9	3	6	0		
合計	11	13	24	11	12	23	13	10	0		

区分		志願者			入学者数			入学者の出身大学等			
		男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外	
保健医療学研究科	2023年度 秋季	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	
		社会人	5	3	8	5	3	8	4	3	1
		合計	5	3	8	5	3	8	4	3	1
	2024年度 春季	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	
		社会人	2	0	2	0	0	0	0	0	
		合計	2	0	2	0	0	0	0	0	
2024年度 春季	博士前期課程	一般	2	3	5	2	2	4	2	2	0
		社会人	8	7	15	6	7	13	1	10	2
		合計	10	10	20	8	9	17	3	12	2
	博士後期課程	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	
		社会人	5	0	5	4	0	4	3	1	0
		合計	5	0	5	4	0	4	3	1	0
合計	15	10	25	12	9	21	6	13	2		

※専門コースを含む

2023年度秋季合計[4研究科]

区分	志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
	男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
合計	14	10	24	12	9	21	10	10	1

2024年度春季合計[4研究科]

区分	志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
	男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
合計	65	49	114	59	47	106	63	41	2

学位授与数

(甲号)

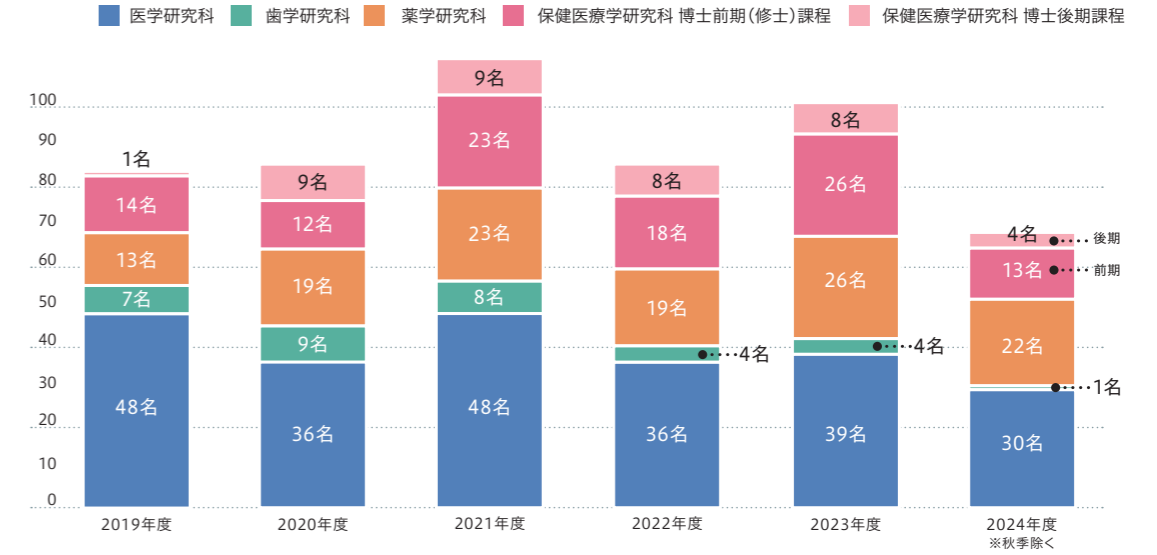
(2024年3月31日現在)

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医学研究科(博士)	51	58	45	53	43	40	34
歯学研究科(博士)	25	27	21	22	19	22	25
薬学研究科(博士)	6	10	15	13	17	13	18
保健医療学研究科(博士前期課程)	17	16	20	20	17	16	15
保健医療学研究科(博士後期課程)	2	3	1	5	5	5	9

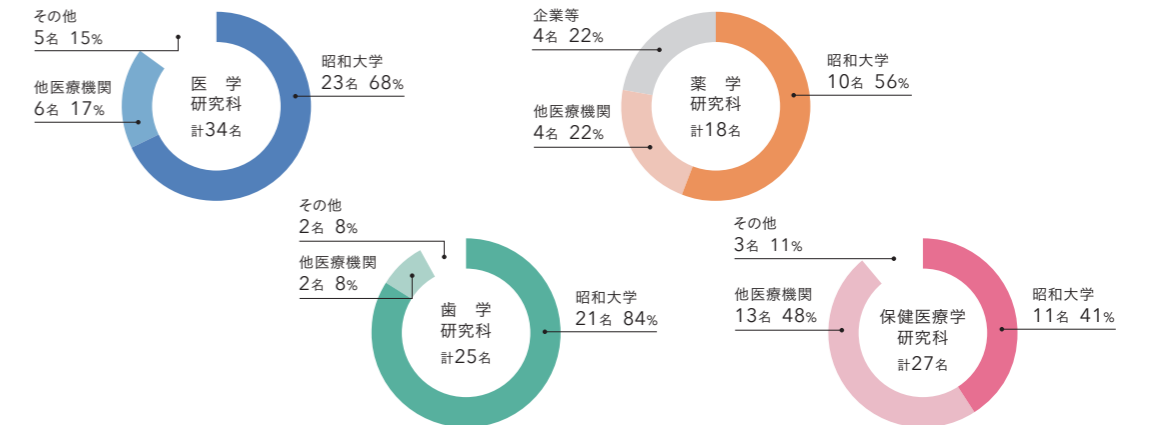
※保健医療学研究科(博士前期課程)には、CNS修了者を含む

社会人の受入実績

(2024年4月1日現在)



2023年度 修了者進路状況



早期修了制度

下記の年数以上在籍していれば、優秀な業績をあげた学生に限り、特例により在学期間の短縮が認められています。

- ◎ 博士課程 3年
- ◎ 博士前期課程 1年
- ◎ 博士後期課程 修士課程もしくは博士前期課程に2年以上在籍し、当該課程を修了した者 1年
- ◎ 修士課程に1年以上在籍し、当該課程を修了した者 修士課程における在籍期間を含めて3年

表彰制度

【上條賞】

在学中に特に優れた業績をあげた学生に対して、上條賞が授与されます。

大学院生海外渡航 奨学金制度

昭和大学では大学院各研究科の在学生が海外に渡航し学会発表等を行う場合に、申請により奨学金を支給する制度をもっています。在学中1回で、10万円を限度とします。なお、この奨学金の対象は筆頭演者として研究発表する場合(渡航期間5日間以上)に限られます。

科目等 履修生制度 (MDプログラム)

科目等履修生制度(Multi Doctorプログラム)は、次世代の研究者を育成するために、本学の学部在学生在が科目等履修生として大学院の教育を受け、研究マインドを醸成するものです。医学部、歯学部、薬学部の第4学年以上を対象とし、大学院の専門的な科目を受講する十分な学力があると認められた学生が、医学研究科、歯学研究科、薬学研究科のひとつを選択して修学できます。学部卒業後、決められた期間に大学院に入学した場合、科目等履修生として修得した単位は、修了必要単位として算入することができ、早期から論文作成に向けて研究に集中することができます。

奨学金制度

◆昭和大学独自の奨学金制度

名称	制度の内容	給付/貸与	対象研究科	対象者	給付額/貸与額	給付期間
昭和大学 大学院奨学金	昭和大学大学院奨学金給付制度は、学生が経済的理由により大学院に進学できないことや、研究を断念することがないよう、また、優秀な学生に対して学業を奨励し、本学全体の学術研究の質的レベルの向上を図るために設けられた奨学金給付制度(返還義務のない奨学金)です。※学費納付後に給付されます。	給付	全研究科	日本に生活基盤を有さない外国籍の学生で、本奨学金以外の奨学金の給付を受けていない者	1年次 60万円/年 2年次～4年次 50万円/年	標準 修業 年限
			医学研究科 歯学研究科 薬学研究科	学部5・6年次に本学学部特別奨学金の給付を受けていた者	1年次～4年次 40万円/年	
大学院 特別奨学金	大学院特別奨学金は、特別奨学生が経済的理由により、大学院進学を断念することがないよう、また、学業に専念できるよう設けられた奨学金給付制度です。※学費納付後に給付されます。	給付	薬学研究科	学部5・6年次に本学学部特別奨学金の給付を受けていた者	1年次～4年次 120万円/年 ただし、臨床研修薬剤師期間を除く	
学校法人 昭和大学 奨学金	学校法人昭和大学奨学金は、修学が困難な学生に貸与し、優秀な人材を育成するために設けられた貸与型の奨学金です。	貸与	全研究科	一般枠の学生で、日本学生支援機構による奨学金の採用をされなかった者	50万円/年	1年間

※他の奨学金給付制度(返還義務のない奨学金)との併用はできません。
※奨学金制度については変更になる場合があるため、最新の情報はホームページ、入試要項等をご覧ください。

◆昭和大学以外の奨学金制度

名称	制度の内容	給付/貸与	対象研究科	対象者	給付額/貸与額	給付期間
岩垂育英会	岩垂育英会は、生命科学、特に、歯科基礎医学を研究する大学院生で、学術優秀でありながら経済的理由によって、修学が困難なものに対して奨学援助を行うことにより、将来有用な歯科基礎医学研究者の人材を育成することを目的としています。	給付	歯学研究科	歯学研究科に在籍する学生	5万円/月	1年間
森田奨学 育英会	森田奨学生育英会は、学術優秀、品行方正、身体強健でありながら、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行い、もって社会有能の人材を育成すること並びに歯科医学医術向上のため奨学事業を行うことを目的としています。	給付	歯学研究科	歯学研究科の4年生	3万円/月	1年間
日本学生 支援機構	日本学生支援機構は、経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し、奨学金を貸与しています。	貸与	全研究科	全大学院生	5万円～15万円/月	標準 修業 年限

※日本学生支援機構については業績優秀者返還免除制度があります。(無利子貸与奨学金のみ)

学 費

	入学金	授業料(年額)	実習費(年額)	施設費	合計
医学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	300,000円	900,000円
歯学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	300,000円	900,000円
薬学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円
保健医療学研究科 (博士前期課程)	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円
保健医療学研究科 (博士後期課程)	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円

※入学金と施設費は、初年度のみ納付 ※施設費は、本学出身者は免除

医学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季Ⅰ期・秋季：8月/春季Ⅱ期：2月
募集人員	春季Ⅰ期：一般・社会人各30名/春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法	外国語試験(英語)および志望専門科目(口頭試問等)

歯学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季Ⅰ期・秋季：8月/春季Ⅱ期：2月
募集人員	春季Ⅰ期：一般22名・社会人若干名/春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法	外国語試験(英語)および志望専門科目(口頭試問等)

薬学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季Ⅰ期・秋季：8月/春季Ⅱ期：2月
募集人員	春季Ⅰ期：一般・社会人15名/春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法	外国語試験(英語)および志望専門科目(口頭試問等)

保健医療学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季：11月/秋季：8月
募集人員	春季：前期20名・後期6名/秋季：前・後期ともに若干名
選抜方法	前期：英語・小論文および面接/後期：英語および志望専門科目

●昭和大学大学院についての問い合わせはこちらまで

昭和大学学事部大学院課 [医学研究科・歯学研究科・薬学研究科]
〒142-8777 東京都品川区旗の台1-9-14 TEL:03-3784-8793
Mail:daigakuin@ofc.showa-u.ac.jp

昭和大学学事部長津田校舎事務課 [保健医療学研究科]
〒226-8555 神奈川県横浜市緑区十日市場町1865 TEL:045-985-6503
Mail:nrkyoumu@ofc.showa-u.ac.jp